

フォワード・フェローシップ

🕒 Read 2分

Steelcaseとサバナ・アート&デザインセンター（Savannah College of Art and Design, SCAD）は共同で新たなデザインフェローシップを開設。目的はデザインでの先駆的な思想リーダーで構成するエリート集団を形成することで、企業の枠を超えて、職場環境の問題を解決しようというものだ。

ここ数年、デザイナーの多くが加速する仕事へのスピードや激変するビジネス環境の中で様々な問題に直面するようになり、顧客の課題を解決するソリューション提案にも限界を感じていた。「顧客が今、直面しているデザイン上の課題とは複雑な問題を含んでいます。仕事の締め切りに追われていると、調べたりする時間もなく、ましてや変化の速度に合わせていくのは非常に難しい状況です。」とSteelcase Design Allianceのプリンシパル Madelyn Hankins氏は語る。

国際的デザイン&コンサルティング会社であるStantec社のシニアインテリアデザイナーである My Linh Elliott氏はこう語っている。「私たちにはどんな環境にも対応できる刺激的で最先端な方法を探求する責任があります。締め切りに追われながらも、最新のITや情報にも精通し、セミナーやワークショップ、展示会などにも時間を割き、常に学ぶという姿勢が大事です。業界が生み出す画期的な製品やアイデアを常に把握しようとすることは決して容易なことではありません。」

この話はデザイナーたちが常に追求してやまない「学習や情熱、インスピレーションのための源」とも関係していて、今回のSCADのデザインマネジメントスクールとラーニングセンターのパートナーシップ提携のきっかけにもなっている。彼らは業界が直面する問題をもはや一企業や団体では解決ができないという結論に至った。そこで、集中して何かを学ぶイマージョン（没頭）型共同研修プログラムを実施し、集団として取り組もうということになったのである。

そこで、集中して何かを学ぶイマージョン（没頭）型共同研修プログラムを実施し、集団として取り組もうということになったのである。

それが、世界中にキャンパスを持つ米デザイン教育のリーダー的存在であるSCADとSteelcaseが共同で主宰する初めての「フォワード・フェローシップ=Forward Fellowship」というカタチで具現化された。「異なる視点を持つ才能ある人々が集うことが今日の業界の課題を解決するのだと考えたのです。また、オフィスを離れて、デザイン思考という新たなスキルを取得することも今後の備えになるのです。」とSteelcase Design Allianceのプリンシパル Jerry Holmes氏は語る。

SteelcaseとSCAD主催の世界的調査の結果、まずはアメリカ、カナダ、メキシコ、フランス、ドイツ、イギリスで世界的に活躍する11の進歩的企業を選出し、各企業での社内選考を経て候補者が決定した。Holmes氏は「私たちは異なる視点を持つ多くのデザイナーたちを集わせ、彼らが直面しているデザイン上の複雑な課題に対応できる新たなスキルを習得させようと考えたのです。」と説明している。

「グローバルレベルのチームには、異なる文化や慣習、視点や考え方を持つ多種多様なチームプレーヤーの融合体としての強いパワーがあります。」と語るのはSCADのチエアデザインマネジメントの William A. Lee氏だ。

まず、メンバーたちはジョージア州サバナにある SCAD のキャンパスに集合し、1週間を共に過ごす。そして、脳科学と物理的スペースとの相関関係を示唆する調査をベースに「構築された環境内で、集中力や創造性、学習に向けてどう脳を活性化させるか?」について討論を重ねた。しかし、それよりも重要だったのはデザイン思考を学びながら、メンバーたちが共に成長し、新たなスキルを習得するということだった。研修内容にはデザイン思考、顧客価値の提供、デザイン意図をベースにしたストーリーづくり、問題解決のための骨組み、拡散的思考のためのシナリオ立案などがある。メンバーたちは、Steelcase やSCAD の研究員やエキスパートから徹底的な指導を受け、自らの発見や調査結果を明確に表現することを通して、やがて自分なりの思考を磨き上げていくという過程を辿る。

数か月後、彼らは再びニューヨークで集結し、プログラムは終了する。これらのセッションの合間にも、ネット上のバーチャルチームが構築され、メンバー同士の絆は時の経過とともに強まっていくことになる。最終的には新たな働き方や思考法、そして、顧客を前進させる意義あるソリューションを見出すことで、個々が成長していることにも気づくことになる。

Steelcase の Workspace Futures Group の上級研究員兼「フォワード・フェローシップ」のメンターとして活躍した Melanie Redman 氏はこう語っている。「業界の多くの企業は様々な問題や課題を抱えていることを十分認識しています。今回の研修プログラムへの参加も企業として十分な価値があると判断した結果です。そして、今度はメンバーたちが自社に戻り、社内で変革をしていく番です。また、それだけでなく、今回のように異業種のデザイナーたちが横断的に絆を深めることは将来的なコラボレーションにもつながっていきます。」

建築事務所である Page社の Jamie Flatt 氏はこれについて次のように語った。「今回の参加で、職場環境のデザインに関する対話内容を根本的に見直さなければならぬと感じました。それは顧客や案件にアプローチする際の質問事項やデザイナーたちをサポートする知識ベースのツールについても同様です。」

Featured Product

TouchDown